学校番号	104

令和８年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校生の美術１」（日本文教出版）						
副教材等	教師作成のテキスト						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生の美術では、美術表現の基礎の確認をおこなうとともに、より創造的な表現と感性を高める創作をおこないます。
美術の世界はさまざまな姿でみんなのすぐ近くに広がっています。
そこに気付ける眼、心情を養い、日々いろんなことに関心を持ち、感性を磨いていきましょう。
美術は自分の中の新たな創造力の発見や、ものごとを多角的にとらえる観察力を深めることにつながります。

２　学習の到達目標

（１）美術の幅広い活動を通して造形的な視点についての理解を深め、創造的に表現する能力を深める。
（２）表現の技法や意図を考え、創造的に発想し構想を練ることができる力を身に付けるとともに、価値意識をもって美術に対する見方を深める。
（３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化に親しむ態度を身に付ける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法の創意工夫をして創造的に表現している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫をして表現するとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、見方感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	導入『美術とは何か』	・オリエンテーション 授業時の心構え。 教科書を鑑賞し、「美術Ⅰ」の学習イメージを持つ。 年間の学習内容を示す。 ・人物クロッキー 生徒相互がモデルになってクロッキーをする。人物の骨格、重心、バランス、動勢などに注意する。 毎授業開始時におこなう。	a:クロッキーの目的を理解し、鉛筆の特性を生かして表現している。 b:対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、画面への入れ方などを工夫している。 c:美術の多様な表現に関心を待ち、これからの学習に意欲を高めている。	スケッチブック	スケッチブック	授業観察 ワークシート
	技法『遠近法』	・透視図法 ワークシートを用い、透視図法を正しく理解する。 ・遠近法 教科書を鑑賞し、作品からさまざまな遠近法を知る。	a:透視図法、遠近感の表現について理解している。 b:教科書の作例から表現の工夫などについて考え、見え方や感じ方を探求して表現している。 c:今後の制作活動に向けて、意欲的に学習に取り組もうとしている。	ワークシート	ワークシート	授業観察 ワークシート
	絵画『風景』	油絵具による表現① ・校内風景を描く 風景をよく観察して、その場所の魅力や美しさを視点や構図、光と陰影などを工夫して、思いを込めて表す。 透視図法を使って遠近感を捉えて描く。 油絵具の使い方、特性、表現技法を学ぶ。 制作途中で相互鑑賞の時間をもうける。	a:油絵具の使い方、特性を理解し、遠近法などを取り入れた表現により、構造、立体感の表し方を身に付けている。 b:感じ取ったよさや美しさを基に主題を生成して、構図を練っている。 c:油絵具による表現に興味、関心を持ち、積極的に創作活動に取り組んでいる。	作品 制作の様子	作品 制作の様子	制作の様子

2	デザイン・彫刻『ものづくり』	・レザーカードケースの制作 暮らしの中で使うものをデザインすることで、使う場面や機能、美しさなどを考え、創意工夫して表す。 デザインを基にレザーに彫刻を施す。カービング、スタンピングなどの技法、道具の使い方を学ぶ。 さまざまな工程を積み上げひとつの小さな作品に丹念に取り組み、ものづくりの喜びを知る。 染料による彩色、仕上げ剤などについて、よく理解しながら完成をめざす。	a:制作工程をよく理解し、さまざまな道具の使用法や技法について理解している。 b:発想豊かに個性的なデザインを考察し、表現している。 c: いろいろな道具に触れ、それに合った使用法や制作方法などを学び、手を動かすことのよさ、創り出すことの楽しさを味わい、根気よく丁寧に取り組もうとしている。	作品 制作の様子	作品 デザイン画	制作の様子 デザイン画
3	絵画『想像を形に』	油絵具による表現② ・「○○な○○」というタイトルから自由に発想し、空想画を描く。 タイトルはランダムに生成されたものから選ぶ。 これまで培ってきた発想力と創造力により、自由な表現を目指す。 「空想とは何か」について、教科書を鑑賞しながら考える。 想像や空想したイメージなどを基に、形体や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え構想を練るとともに、具体物や抽象的なものの組み合わせ、全体のイメージなどを捉え、架空の世界を表す。	a:油絵具の特性を理解した表現の創意工夫が出来ている。 b:色彩が持つ効果や絵の具の表現技法について理解するとともに、よさや美しさなどを感じ取れており、発想の転換、思考の連想により柔軟で独創的な構想を練っている。 c:美術の創造活動における広がりを感じ取り、自由に解釈することから発想力を養い、架空の情景を創造することで個性を生かした美術表現の奥深さを味わっている。	作品 制作の様子	作品 アイデアスケッチ	制作の様子 アイデアスケッチ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度